
議 事 録 平成 21 年度 第 3 回 金沢市少子化対策推会議

日 時：平成 22 年 3 月 1 日（月）13：30～15：00

場 所：金沢市議会 全員協議会室

出席者：委員 18 名

提出資料：「かなざわ子育て夢プラン 2010」最終案

「かなざわ子育て夢プラン 2010」施策体系と具現化施策

「かなざわ子育て夢プラン 2010」事業総覧

議 題：（1）「かなざわ子育て夢プラン 2010」素案について

質 問 意 見 等

委員 資料3の「あったかファミリーお泊まり事業」について説明してください。

事務局 「あったかファミリーお泊まり事業」というのは、児童養護施設等に入所しているお子さんが施設を離れて、1泊か2泊の家庭生活を体験するもので、家庭生活を提供していただくサポーターの家庭を募集してお預けする。児童の養育のノウハウがある方や、ファミリーサポートセンターで預かった経験がある方々を広く募集し、児童相談所と養護施設等が中心になって、その家庭と施設の児童をマッチングしてお預けするという事業。新年度から始める予定である。

委員 もし、お預かりするとしたら、事前にその児童さんの注意点や、配慮すべきことなどの打ち合わせはあるのか。

事務局 打ち合わせは予定している。若干、研修等も開催したうえで、マッチングをしていくことになる。

委員 資料3について、それぞれの項目の後に、担当課名があるところとないところがあるがなぜか。

事務局 担当課名を書いていないものは、こども福祉課の事業。

委員 資料3の2「仕事と生活が調和できる環境をつくる」で、保育の施設のところに、具体的な名前が中央病院と松田小児科の2つだけ挙がっているが、順次増えてくるのか。

次に3番の「フレッシュ学生まちなかサロン」、これは市内における保育科を有する大学や専門学校の学生と理解するのか、それとも幅広く、関心がある学生も参加できるのか。

「木と遊ぶデザイン製作」で工業デザインを学ぶ学生とは、美大生のみを対象としているのか。

最後に5番、耐震化率が年度ごとに何%かずつクリアしていくという具体的な数値目標は記載がないが、別のところで見える機会があると理解していいか。

事務局 病児一時保育に関しては、現在、金沢大学附属病院、聖霊病院、城北病院、健生病院、横井小児科の5施設で実施している。さらに来年度から2カ所増え7カ所になる。

当面はこれで金沢市の需要をかなり満たすのではないかと予測されるので、あとは需要を見ながらと考えている。

「フレッシュ学生まちなかサロン」は、市内にある大学で、なおかつ、子どもに関する学部を持っている大学、具体的には、北陸学院大学と星稜大学の学生にお願いして、まちなかでサロンをしていただくという事を考えている。

「木と遊ぶデザイン製作」は、もちろん美大の学生もだが、高校生等に一度保育所、幼稚園に出向いていただき、子どもと遊んで、こういうおもちゃなら良いのではないかとというアイデアを出してもらおう。これを金沢産材で製作し、広場等で実際に使ってもらい人気のあるものを表彰していくという事を考えている。

私立保育所の耐震化については、金沢市は昭和 50 年度前後に多くの保育所が建てられたこともあり、耐震化は急務である。年度ごとに進めていき、22 年度には耐震化率を 66% まで上げ、最終的には 7～8 割にまで上げていきたいと考えている。

委員 内容を見ると、基本的には赤ちゃんや幼児、小学校低学年くらいまでが中心で、これは当然やっていただければいいと思う。現実の問題では、小学校高学年から中学生くらいで不登校が始まってくるとか、最近では心の病を持っている子どもも出てくる。非行やキレる問題等を含めて、周りで悩みを抱えている人の話を結構聞くし、しかも増加傾向にあるということは間違いないと思うので、この辺のことも、もう少しどこかで触れてはどうか。

事務局 金沢市としては、不登校やつまずきを見せている子どもに、外部から支援員等を派遣しており、少しずつではあるが、対策を行っている。最終的にはきちんとした形で学力を身に付けて、学校を卒業していただくということを念頭に置いてやっている。これについては、新年度以降も充実を図っていきたいと思っている。

委員 最終案の 9 ページ、「取り組み姿勢のイメージ」ということで、家庭を中心として、地域や保育所等、行政、職場となっていて、基本施策ごとに、具体的にこの 5 つの絡み合いが記載されていて、とても分かりやすい。この中で、地域に周知徹底するのが一番難しい部分だと思う。このプランをどうやって地域に浸透させていくのか、具体的な案があれば教えていただきたい。

事務局 こども福祉課では、保育所・放課後児童クラブ等の所轄をしている。同時に地区の児童館や民生委員児童委員、主任児童委員とのかかわりもあるので、こういうルートを通じて、地域の皆さんにこのプランを配っていただく、もしくは趣旨をご理解いただく、

事業を知っていただく、というようにしていきたいと考えている。

委員 「夢プラン 2005」の時と同様に冊子ができ、概要版もできると思う。それを使い、民生委員児童委員や公民館の職員など、地域の団体の方々に、年に何回か、団体ごとの説明会や勉強会をやって、普及、啓発に努めていただきたい。特に配慮願いたい。

事務局 そういう機会を是非持っていきたいので、ご協力をお願いしたい。概要版は作成予定である。

委員 資料3の予防接種はできれば全額助成してほしい。各論になるが、去年の12月にHPVワクチンが発売された。子宮頸がんの予防に相当効果があり、理論的には20年間、がんの発生を防ぐと言われている。接種は半年間で3回、大体5～6万円の費用がかかる。それで、公費助成が求められるが、金沢市でも少しでも助成できるような方向にいったらいいと思う。

事務局 お子さんの予防接種の助成については、昨年7月から任意の予防接種について、水痘、おたふくかぜ、ヒブ、インフルエンザを対象としており、22年度については、これに加えて肺炎球菌も助成の対象とする。乳児期予防接種については、0歳児の助成制度がこれまでなかったことから、ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンのどちらかの接種をした場合に、助成するというものである。少しずつ助成対象を拡大しているということで、ご理解いただきたい。

もう1点、HPVワクチンの助成についての要望だが、これについては、2月に国の説明会があった。国の資料によると、このワクチンについては、日本人に対しては50%～70%の対応しかできていないということと、また国においては、新型インフルエンザを含めて予防接種法の改正を検討しているとのことである。その中で、諸外国に比べて種類が少ない予防接種についてどのような対応を取っていくのか、それらについても検討されると聞いている。それらを受けて、金沢市としても今後検討していきたい。

委員 資料3の「3. 金沢市を担う未来の親の育成と若者の自立を支援する」の最後の学校指導課による、「金沢「絆」教育推進事業」だが、今年度も絆教育ということで、「ボランティアの日」と「あいさつの日」ということで、私の学校でも活動をしている。今日、この事業に関して、絆教育が未来の親の育成ということにもつながっていることが改めて分かった。(新)と書いてあるが、来年度はまた新しい試みがあるのか。

事務局 今年度から第2次学校教育金沢モデルを構築するという事で、従来の学校教育金沢モデルに加え、金沢「絆」教育を実施している。新年度については、金沢「絆」教育ということで、外出しをさせていただいた結果、(新)という形になった。内容は、「全市児童生徒ボランティアの日」、また「全市児童生徒あいさつの日」は、実施する方向で考えているが、時期、内容については現在のところ未定である。また、これも予定だが、小6から中1の段差の解消を目指し、中学校に入ってすぐに何か一緒に取り組むようなことができないか、そのような事業についても考えているところである。また、絆というのも広くとらえ、なぜそういったことが必要なのかということを考える、地域の広がりを持たせたような会を企画し、皆さんと共に考えたいと思っている。詳細については、これから進めていく。

委員 6番目の、「特に配慮を必要とする家庭への支援の充実」というので、新たに父子家庭を追加とあるが、ひとり親家庭というのは母子家庭のほうが多く、自分の周りを見渡しても、父子家庭というのは私の範囲内にはいらっしやらない。精神面のサポートもあるのか。

事務局 今まで女親でないと出なかった手当が、男親の家庭にも拡大されるということで、350前後の方から申請があるのではないかと見込んでいる。男親特有のどのような悩みや問題を抱えているのかというのは、制度を運用しながら検討し、対策を考えていくことになると思っている。

委員 資料3の2の「ワーク・ライフ・バランス推進事業」について、具体的にどういう施策を進めていくのか。これはとても重要なことだと思う。対象を今就業している方だけではなく、特に配慮を必要とする家庭にも広げていただきたい。

事務局 まず、仕事と生活の調和の取れた、働きやすい職場環境づくりを推進するために、雇用環境の改善に向けたセミナーを、企業の人事・労務担当者、一般市民などを対象として、中央講師による講演、ワークライフバランスに取り組む企業や個人の体験談などの内容で、平成22年10月と23年1月の2回の開催を予定している。また、平成18年度から社会保険労務士を活用し、事業主に対して、金沢市の各種助成金の有効活用及び、次世代法に基づく一般事業主行動計画の策定、届け出を促進して、雇用の安定及び、次世代育成のための労働環境の整備に努めているところである。

委員 できるだけ、すそ野まで具現化できるような施策をお願いしたい。

委員 資料3の1の1)で、3点、質問と提案をしたい。

まず、「子育てファミリーカレッジ」だが、今まで、「ママさんカレッジ」をやっていたが、新たにファミリーカレッジというものが始まるのか、何が変わるのかを教えてください。

2点目、「ゆめまちづくり活動支援事業」は、具体的にどういうことをしているグループが対象になるのか、参考までに教えてください。

3点目、「生命(いのち)の絆「緒つつみ」事業」、赤ちゃんを産んだばかりのお母さんには、温かく、うれしい気持ちになるような事業になると思う。それについて提案だが、少し前に赤ちゃんを産んだお母さんからのメッセージも入れていただきたい。勇気づけられる部分があると思う。

事務局 「子育てファミリーカレッジ」は、今年度までは「ママさんカレッジ」といって、お母さんを対象にしたものを企画していた。この会議でも意見が出たが、お父さんも子育てにかかわっていかねばという提案もあったので、今どきの子育て事情を含めて、家族で学んでいただくような講座にしていきたいと思っている。

2点目は、市民参画課で企画している事業の中に一枠確保し、結婚・子育て支援に関する団体に対し募集することを考えている。具体的なことに関してはこれから詰めていき、正式に決まってから提示させていただきたい。

3点目の「緒つつみ」事業は、エピソードも少し伺いながら、メッセージとして発信する、あるいは、各家庭におけるメッセージを伺っていこうと考えている。

委員 「効果的な子育て情報の提供」として、「お役立ち BOOK」を改訂するということが、今回の報告書の例えば 99 ページのほとんどの事業の方向性が「継続」となっている。「お役立ち BOOK」の改訂で、このような継続の事業はどのような扱いになるのか見えにくい。

事務局 基本的には、「金沢子育てお役立ち BOOK」は印刷物のため、1回作るとしばらくは情報の更新が難しい。現在のように、できればリアルタイムなものに関しては、「子育てお役立ちウェブ」という形で情報提供させていただきたい。ネット上では最新の情報を得られる。どうしてもペーパー上では古くなってしまふ。そういう形で、情報更新を図っていこうと考えている。ご指摘の事業だが、かなりの部分で母子保健制度の中で、実施しなければならない事業であり、それに関しては、従来どおり「継続」という意味で、「継続」と記載している。母子保健法の中でもさまざまな支援がバージョンアップするので、その

都度、事業を進めていきたいと考えている。また、お役立ち BOOK に反映させたいと考えている。

委員 父親がどのように参加するかというのは、これからの子育て環境を変える、非常に大事なことである。実質的に父親が子育てに積極的に、自分の人生の一部としてかかわっていけるような、そういう子育て環境をつくっていくために、いろいろな講座の企画を生かして、浸透させていくことで、何か工夫をしているのか。

事務局 私どもの発信もさることながら、企業や学校の PTA の中でもお父さん方中心の会が出来上がっているとか、お父さん方自身からいろいろな形で発信がある。そういう方と一緒に何か事業を企画したり、生みの喜びは多分、両親の喜びではないかと思うので、その喜びの原点、スタートに立ったものを発信していただける、そういった仕掛けを入れていきたいと思っている。そういったことをご提案いただきながら、お父さん方に楽しんでいただきたい。場合によっては、負担が多くて苦勞しているお母さん方を優しく見守っていただくのも、最大限のお父さんの子育てではないかと思う。

事務局 金沢市には男女共同参画室が設置されている。各企業や地域に出向き、男女ともに、いろいろな形での共同参画をと、出前講座を開いている。今年もいろいろなところから申込があり、企業にも出向いた。これを積極的に活用していきたいと思っている。

委員 金沢子ども見守りネットワークの図の中に、「地域」というのが入っていないが。

事務局 もちろん、地域は含まれる。ここでは民間・地域団体というところで、地域を表しているというふうにご理解いただきたい。この図に関しては、いろいろな描き方があると思うので、今後、更新をしていく上で考慮していきたい。

委員 金沢には川が2つあり、卯辰山があり、公園もある。そういった地域性を配慮した、環境づくり、または遊ぶ場所、そういう提供の場がもう少しできないかなと思っている。

事務局 各課で相談し考えたい。

委員 この計画、「夢プラン 2010」は大変良くできていると思う。親と子、社会が協働で楽しい生活をつくっていけるというのは、非常に有り難いことだ。住んでみたい、住んで良かった、長く住みたいという金沢をぜひつくっていただくようお願いしたい。

委員 資料編の 75 ページ、例えば、No.10 で方向性の欄に現状と目標値が書かれているが、目標値が単に「増やす」とされている。数値が書けないのなら、現状の数値も記載しないほうがいいのではないか。

事務局 ご指摘ありがとうございました。少し検討させていただきたい。

事務局 今後のスケジュールについて報告します。本日委員の皆さまからいただいたご意見を参考にしながら、3月末をめどに「夢プラン 2010」を策定し、冊子として製本します。概要版の作成も予定しています。冊子ができたら、諸岡会長と民間ワーキングの座長を兼ねていらっしゃる関委員のお二人に、市長に手渡しし、報告に行っていただく予定をしています。

会長 関委員と私で、皆さんを代表して、市長に手渡したいと思います。

以上をもちまして議事を終了します。長い間にわたって委員の皆さんにはご協力いただき、ありがとうございました。